

令和元年度 第2回 加賀市健康福祉審議会 障害者分科会 資料内容についてのご意見・ご質問

該当箇所				ご意見・ご質問の内容	質問者											
NO	資料	ページ	項目													
1	1	2	2-1 自発的活動支援事業	「参加者の送迎はしない」ということで同意したとあるが、視覚障がい者の場合、送迎の希望を出しており、全員納得という話は聞いていない。	竹内委員											
2	1	5	10 移動支援事業	延数と延べ実数が年を経るごとに減少しているが、今年度はさらに減少していると思う。これは事業所が少ないのではなく、職員の働き方改革により日曜、祝日に働ける人が少ないのが原因だと思う。介護事業所とは別にこの事業を行う必要があると思う。実際に依頼しても断られることが多い。	竹内委員											
3	1	5	11 地域活動支援センター事業	活動は全員が一室に集められ、それぞれの活動をしているみたいだが、障がい者別にやりたいことをやれるスペースが欲しい。(個性を重視してほしい。)	竹内委員											
4	1	3	3 相談支援事業	①じりつ支援協議会の「見直し」の評価(相談員の慢性的な人的不足)に対しての、行政としての対応具体策をお教えてください。 ②市の「継続」の評価は、すでに現状に満足した「後退」を意味するものと受け止めますが、その見解をお教えてください。	谷井委員											
5	1	3	4 相談支援事業機能強化事業	①じりつ支援協議会は「適切」の評価としているが、その理由・内容をどのように受け止めているのかをお教えてください。 ②CSW(コミュニティソーシャルワーカー)を意識した専門性を高めることへの資質向上が問われていると思われませんが、その見解をお教えてください。	谷井委員											
6	1	3	3 相談支援事業 4 相談支援事業機能強化	相談事業における当事者側の認知度・期待度はアンケート結果で明らか。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>H26年</th> <th>H29年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">相談相手</td> <td>相談員</td> <td>3.9%</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td>障害者相談員</td> <td>3.1%</td> <td>3.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>「相談」によって得られる「安心」への当事者にとっての道しるべが、厳しい見方をすれば、相談事業そのものが期待に対して質・量ともに機能不全に陥っていると認識すべきでは。人材投資への予算配分を高める編成が必要ではないでしょうか。</p>			H26年	H29年	相談相手	相談員	3.9%	2.6%	障害者相談員	3.1%	3.7%	谷井委員
		H26年	H29年													
相談相手	相談員	3.9%	2.6%													
	障害者相談員	3.1%	3.7%													
7	参考資料3		アバター実装に向けた実証実験事業	視覚障がい者にとって全然現実的ではない。ガイドヘルパー等の充実を考えて欲しい。	竹内委員											
8	その他			資料にありませんが、次のことについて教えてください。視覚障がい者が小松の自生園に入りたいけど入れないということを知りました。最近の実績について教えてください。なにか問題があるのでしょうか。	竹内委員											